

## 14-9 ウエペケレ「トノト カムイ イコシネウエ／

### トウキ オルン オクイマ メノコ」解説

語り手：鍋澤ねぶき  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：えー、私は一人のある村の、ある男でございました。噂に聞けば近くへ訪ねてくる女の人がおりまして、隣村、あるいはそのまだ隣の方へ、えー、来てその女の人言うのには、んー、まあ小さな荷物を背負って、こう村を訪ねて、そして今晚泊めてくださいと、泊めると tuki [杯] を一つ貸してくださいと言うので、その tuki [杯] を貸してあげますと、その tuki というのはアイヌのお祈りに使う杯ですね。大型の杯ですがお椀の大きいやつ、その杯を貸してあげると、こう、sowsut [部屋の隅] というふうな表現をしておりますが、こうちょっと隅っこの方へ行って、あそこにオシッコをジャーっとオシッコをした音がする。

そして、それを持ってきて、これを飲んでくださいとそこの家主に言うのと、「や、飲めません」と言うのと、なんちゅうかそこで罰金を取るというのかな、そんなようなことであるものを取ってはまだ次々と歩いているのを聞いておったと。

鍋澤：(誰かが動いて物音をたてたので) iteki e=haweaste. [声を立てないで]

萱野：ある日のこと、まだ私の所へもやって来た。そして外で、こう、んー、声があるので家内が出てみると、噂に聞いたあの女らしい人が見えておりますという。そんなこと言わずに、まあ入れなさい。

入ってきて、見ると非常に、その上品な人で、小ぢやかな荷物を一つ背負っておる。まあ、今晚泊めてくださいと言うので、ま、泊めた。

そしたら、まー、泊まることになったら、噂に聞いた通りに杯を一つ貸してくださいと言うので、杯を一つ貸してあげると、こう影の方へ行って、話に聞いたように、まあ、あー、ジャーっとそのオシッコをしたような音して持ってきた。a=kor nispa これ飲んでくださいと、家主さんよ、これ飲んでくださいというふうに言って、よくそれを取って臭いを嗅んでみたり、見たりすると、ま、お酒であったと、普通の日本酒であったと、

それで、まーそれを一気に、ま、飲み干した。

そうすると、その女の人の言うのには本当にありがとうございましたと、影へ持って行って、あれしたけど、実際それはオシッコではなくでお酒なんですと、私はいわゆる酒の神様だと、んー、私たちの住んでおる **armoysam** [山向こう] の村の人たちが **uymam** と行ってよそへ、まー交易に行ったわけですね。

鍋澤：うん。

萱野：そして、その、んー帰ってきたらその村は **pakooyan** [疱瘡が上陸する] といって、いわゆるその病気が流行して全滅しておった。

そこへ、まー、その交易に行った人たちも上がったら、その人たちもすぐに、ま、そこでの病気のもんで、えー感染して死んでしまったと。それで、その交易に行き帰ってきた、んー船にはいっぱいお酒から食べ物があっても、それを誰も来て食べてくれる人も、使ってくれる人もいないので、私は酒の神様であるけども、人間に身を変えて、こうやって村々を訪ねてきて、来たんですと、ところが誰も、その、まーオシッコだと思うので、それを飲んでくれなかったのに、あなただけは非常に良い精神の人なのでそれを飲んでくれましたと。

だから、あの、すぐに明日にでも行って、んー、その酒やなんかを持って、ま、死んだ人たちにも供養をし、そしてあんたたちはそれを持ってきて食べたりなんんだりしてもなんも差し障りありませんからと言って、ま、その晩、その女の人は寝た。

夜が明けてみると、なるほど、寝た、あの寝した場所には、その人間であつた人はいないで、酒樽が一つゴロンと転がっておった。それを、ま、皆で村の人たちを集めて飲ましたりしてから、その話のあつた、んー、**pakooyan** した村、いわゆる病気のあつた村へ行って、えー、その船からたくさんのお酒を下して、そして死んだ人達の供養もし、それを持ってきて、私たちの村へ持ってきて、それを飲んだり、使ったりしましたが、まあ、神様である、その酒の神様の女が言ったと同じ、言ったように何も差し障りなく、その後もどんな病気が流行っても私たちの村だけは、その病気にも罹らず、こうして皆で仲良く暮らしておりますと。で、酒というものは女神であるということをそこで私は知りました。と、一人の男が語りました。

ま、これなんかも、まあ **uepeker** [散文説話] としても、まあ内地に交易に行ったとか、そうしたこと、あるいは病気の流行り具合とかそんなよ

うなことがあり、その酒そのものにも魂があるというふうに考えておる。  
そのアイヌの生活、精神文化と言いましようか、そうした一端の伺える物  
語ですね。これは **uepeker** [散文説話] といって、えー、物語……